# 令和8年度　ツェルマットへの派遣交流

髙山櫻子

私は富士河口湖町とツェルマットの派遣交流訪問団として、スイスに７日間滞在しました。この７日間は１日１日がとても新鮮で、体感は３日といったところ。さて、前置きはこれくらいにして、私が今回印象に残ったことをここに３つ紹介しましょう。

１つ目は、スイスの雄大な自然。私たちは世界の名峰、アイガー、ユングフラウ、マッターホルンなどの雪山を見てその偉大さに感心しました。氷河を初めて見て、自然が作り出すものは、人間には絶対に表現できないと感じました。5 日目のハイキングでは、色とりどりの花々がハイキングコースのすぐ脇に可憐に咲いていました。村内の細い路地をリスが横切っていたので驚きました。日本には氷河や、年中雪山といった環境が見られないので、日本とは違った自然の姿を見ることができ、嬉しかったです。その一方で、地球温暖化による氷河の衰退や降雪量の減少といった環境問題も引き起っていると知りました。

私たち人間がこの問題を解決しなければ、美しい自然を残していくことができません。だからこそ私たちが真剣にこの問題に向き合い、今できることを一人一人が行動に移していくことが大切だと考えました。

２つ目はホームステイ。初めてのことだから最初は「言葉が伝わらなかったら？」「何話せばいいの！？」という心配から、緊張の気持ちが生まれていましたが、まったくもってそんなことはなかったです。家族みんなが温かく受け入れてくれて、言葉がうまく伝わらなくても「心配しないで、楽しもう！」と声をかけてくれてとても嬉しかったです。ご飯も今まで食べたことがない料理が振舞われました。おいしかったです。いつの間にか緊張は消え、英語でコミュニケーションをとることに対する苦手意識も消えていました。そして、家族で折り紙をして、鶴や手裏剣をつくることで日本の文化を知ってもらったことが嬉しかったです。

ここで、日本との違いを紹介します。驚くべきことに、ツェルマットの学校のお昼は給食がなく、一度家に帰って昼食を済ませます。日本とは違うスタイルだったので驚きました。私は給食があるありがたさを体感できました。学校が終わった後はアイスを食べたり、公園で遊んだり、自由行動ができたので憧れました。とても親しくなり、思い出をお互いにたくさん作ったからこそ、別れるのはとても悲しかったです。私はここで、英語は『じょうずに話すこと』よりも『単語１つやジェスチャーで自分の気持ちを相手に伝えようとすること』が大切な姿勢なのではないかと考えました。

私は今回の研修でたくさんの良い仲間ができました。「日本の文化を伝えたい」「世界を知りたい」という同じ志を持つ仲間とともに、スイスのことについて事前学習したり、英語で発表したり…どれも何とも取り替えられないかけがえのない思い出と経験になりました。

そして１番忘れてはいけないことは、この貴重な経験ができたのは支えてくれた家族や、計画して実行してくれた大勢の方たちがいるからこそ成り立ったことです。なんと言い表せばいいのでしょう。言葉にうまく表せませんが、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。本当に心から感謝申し上げます。

今後に生かせることとしては、英語で怖がらずに積極的に話すこと、地球温暖化緩和のために今できることを行い、その活動を少しずつ広げ恒常化すること。日々、感謝を忘れないで生活することです。この３点をこれからの生活に取り入れ、実行していきたいです。